



広島国際学院
創立82年



「Nocturnal dolls play」
情報デザイン学科 第2期生
岡田 翔（広陵高校出身）制作（平成21年3月卒業）

地域から世界に、広がる交流と協力

特集 薬物乱用防止教育への取り組み	2
特集 地域連携	3
産学連携で地域に活力を 工学部	4
日常をより豊かに彩るデザイン 情報デザイン学部	5
様々な視点から「いま」を眺める 現代社会学部	6
学生の熱意が原動力 短期大学部	7
高校から発信	8-9
シエラレオネ共和国で教育調査	10
第42回高城祭「New Challenger」を終えて	10
バングラデシュを訪ねて	11
火災防止にも貢献しています！	11
第3回森学術奨励賞	12
学長表彰を創設	12
今後の主な行事予定	12

広報
第80号
平成22年1月1日発行

薬物乱用防止教育への取り組み

平成21年11月17日に、広島国際学院大学立町キャンパスにて「大学生薬物乱用防止教育セミナー」が開催され、本大学の学生12名が参加しました。

セミナーは内閣府、厚生労働省、文部科学省、警察庁の後援を受け、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター、広島フェニックスライオンズクラブおよび本大学の共催で行われました。準備から運営のほとんどを広島フェニックスライオンズクラブの会員の皆様に担っていただきました。

当日は、多くの講師がそれぞれ専門的な立場からお話してくださいました。医学博士の万本盛三氏からは「医学知識」と「薬物乱用と身体への影響」を、広島県薬務課主任専門員の松岡俊彦氏からは「行政事情」と「県の取り組みと課題」を、東京鶯谷ライオンズクラブの寺田義和氏からは「ライオンズクラブ国際協会薬物乱用防止活動について」を、さらに(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター指導員の神垣鎮氏と厚生労働省中国四国厚生局麻薬取締部捜査課長の宮本敏克氏からは「薬物事犯取締りの現況」を、それぞれご講演いただきました。万本氏と寺田氏がわざわざ東京からお越しになるなど、全国初の大学生による取り組みに対する期待の大きさがうかがえました。



講評を述べる阿部企画部長



事前練習を行う苗慧さん
(工学部1年 中国遼寧省出身)

講座終了後、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター企画部長の阿部俊三氏による講評を経て、12名の学生に対し顔写真入りの立派な修了証と講師認定証が授与されました。学生はその後、ライオンズクラブの認定講師の方々を前に事前練習を行いました。人前で話すことの難しさを感じたことと思います。

何名かの学生は、当日来られていたNHKやケーブルテレビの記者から取材を受け、薬物乱用防止教育に取り組んでみようと思った動機や今後の抱負について語っていました。これから薬物乱用防止教育認定講師として本格的に始動することになります。学生達も緊張の面持ちで会場を後にしました。この日の様子はNHKテレビで報道されました。

昨年7月10日に関係者が集まり、第1回大学生薬物乱用防止教育認定講師育成会議が開催されてから、セミナーまでの4ヶ月間、認定講師希望者の募集、有志による自主勉強会、系列高校生徒会との話し合い、大学祭でのキャンペーン活動等を行ってきました。これらの活動の様子がテレビや新聞で報道されたことも、この問題に対するマスコミの関心の高さを示しています。

今後は小・中・高等学校8校で実施される薬物乱用防止教室の講師として、広島フェニックスライオンズクラブの皆様の指導を受けながら活動を行います。11月25日になぎさ公園小学校で、12月2日に広島国泰寺高等学校で、同4日には牛田新町小学校で学生講師も参加した教室が開かれました。本大学としてもこの取り組みが全国の大学に波及していくよう、着実に実施していきたいと考えています。

広島フェニックスライオンズクラブホームページ <http://www.h-phoenix.jp/>



薬物の害をなくすため、これからも頑張ります。

三次青陵高等学校との高大連携協定事業締結

この度、広島県立三次青陵高等学校と高大連携協定事業の締結を行い、平成21年11月13日、本大学立町キャンパスにて調印式を行いました。三次青陵高校は元三次工業高校で、地域に密着した工業人を多く育成してきました。また、中国での植林活動など、国際的な環境保全活動、環境教育に10年以上も取り組んでいます。本大学も地域密着型ものづくり、環境教育に力を入れていることから、地域に根ざした人材教育、国際的な環境保全技術開発を共同で行うべく協定を結びました。

本大学としては、「ものづくりセンター」「ハイテク・リサーチ・センター」「CAD、CAM演習室」などの施設を教育の場として、また立町キャンパスを高校のサテライトルームとして提供し、広島地区における様々な活動をサポートします。高校はこれまで長年培った工業教育、環境教育の手法を大学に提供するとともに、本大学教職課程(主に工業、情報、理科)を履修する学生を支援します。特に理科教職課程志望の学生への地球環境保全教育のサポートは重要で、教育手法や教材作成のノウハウを提供していただく予定です。

今後双方からの出張授業を通じて連携を深め、ものづくりへの人材育成を進めることになっています。また、中国内モンゴル自治区フフホト市へ本大学や系列高校および県内の多くの高校に学生・生徒派遣を呼び掛け、植林や植林ロボットの開発、砂漠の土壌改良、砂漠緑化などの国際的環境保全活動を行う予定です。



ものづくり人材育成や環境保全活動に連携して取り組む

連続講座『情報社会とメディア』

—朝日新聞広島総局と共催、今年で3回目—



加藤千洋氏

新聞やインターネット、テレビ、携帯電話など、私たちは様々なメディアから情報を入手することができます。連続講座「情報社会とメディア」はメディアの特性を理解し、メディアが伝える情報を自主的に判断し活用する能力を身に付けていただくことを目的として開講しています。

9月26日に開講した第1回講座は、平成20年10月までテレビ朝日系のニュース番組「報道ステーション」でコメンテーターを務められた朝日新聞編集委員の加藤千洋氏に「中国の少数民族問題とメディア」と題しお話をいただきました。昨年、中国新疆ウイグル自治区にて起こった騒乱について、中国国内のメディアは政府の情報統制により視聴者に片寄った情報を提供していた。メディアは本当のことをきっちりと報道しなければ

ならないと話されました。

10月10日に開講した第2回講座は、本大学地域連携センター長の佐々木健が「広島の水環境問題とメディア」と題し、講師自身が過去に出演したテレビ番組や取材を受けた新聞の紙面等を題材に、人が山に入らないことにより自然破壊が進み、広島の「水」環境が壊れている。昔のように里山に人が手を加えないと、名水はなくなってしまう。また、食についても関東地方の“濃い口”文化と関西以西の“薄口”文化を硬水と軟水で表現。広島の人々の水に対する気持ちは20年前から今も変わっていない。保つ(守る)意識が必要であると伝えました。



佐々木健センター長

産学連携で地域に活力を

ものづくりセンターが整備されました

各学部学科・専攻の枠を越え「ものづくり教育」や「地域産業との産学連携」を推進するため、中野キャンパスの旧原動機実習室(約300㎡)を改装し「ものづくりセンター」を整備しました。

新設された「ものづくりセンター」の作業スペースには、木材、プラスチック、金属等各種素材の加工設備を設置。学生の自由な発想に基づいた設計で「ものづくり」の面白さを体験させ、また「ものづくり教育」を通じて産業技術の重要性を再認識させて、地域製造業に役立つ人材を育成します。

また環境教育スペースには、食用廃油を原料としたバイオディーゼル燃料の製造装置、洗米排水等を原料としたエタノール製造装置、ソーラー・風力・ハイブリッド発電装置等を設け、新エネルギーで走行する自動車・農業機械、電気自動車等の実用性を評価します。環境・省エネルギー等に関する実証実験を通じ、その実務能力と専門知識を身につけます。

さらに展示スペースでは工学部、情報デザイン学部、現代社会学部の研究成果を一堂に展示。幅広い技術分野で地域の企業の技術者・研究者との意見交換を通じ、技術移転及び産学共同研究の推進、技術指導相談、異業種交流の実施、情報提供等を図ります。



各種設備を整え、ものづくり教育を推進



熱心に受講する参加者

産学連携セミナーの開催

広島市経済局と広島国際学院大学では11月20日、本大学立町キャンパスを会場に地域の関連企業を対象とした産学連携セミナーを開催しました。基調講演「地球環境問題とエネルギー安定供給 ～中国電力の取り組み～」中国電力(株)に続き、県下6大学7テーマの研究シーズの概要が紹介されました。参加者90余名の方々は熱心に受講されるとともに、懇親会では講師の先生方を囲んで質問や名刺交換がなされ、産学官の連携を深めることができました。

	テーマ	発表者
①	増加する嚙下機能の低下した高齢者に提供する食事について	県立広島大学
②	ブロードバンド無線基盤を利用したIP移動通信とデジタルサイネージの展開	広島市立大学
③	進化する学習するマルチロボットシステム	広島大学
④	自動車研究センターの取組みと関連技術の紹介	広島工業大学
⑤	鋳鉄材料を基本にした共同研究の事例紹介	近畿大学
⑥	窒素によるアルミニウムの高機能化	広島国際学院大学
⑦	結晶粒複合化による低炭素鋼板の高強度化	広島国際学院大学

学生参加による地域貢献活動 ～環境教育から限界集落調査まで～



バイオエタノール生産用多収穫米の稲刈り(西条農業高)

大学の地域に根差した地域への貢献のあり方が問われている昨今、本大学における最近の学生参加型の地域貢献活動を紹介します。

本大学は昨年度より、文部科学省指定「目指せスペシャリスト育成事業」(バイオマスタウンプロジェクト・広島県立西条農業高等学校)の運営に参画。バイオエタノール生産に関わる研究を実施しています。

また、広島市環境局主催エコまつり(環ッハッハ in よしじま2009)への出展を通じ、環境教育・活動の推進を展開しています。

さらに、中国地方の山村部で顕著化しつつある「限界集落」の調査活動(NPO法人中国・地域づくりハウス主催)にも参加。山村部に古くより伝えられている生活の知恵、文化の継承に関わる動向について情報収集を行いました。

今後も、学生とともに地域に根差した活動を推進します。



バイオエタノール燃料オープンカーの展示(環ッハッハ in よしじま)

様々な視点から「いま」を眺める

現代
社会学部



厳しい自己管理が支える「川島ブランド」



川島先生

10月21日、現代社会学部棟2階の300人教室にて、川島なお美客員教授による講義が行われました。

今回のテーマは「プロの仕事論」。一流プロとしての職業人論、一流論を中心に、才能や努力、厳しさや楽しさなど、社会に巣立つ学生が「仕事」に関して多くを学びとることを目的としたものです。いわば、「プロフェッショナルな世界」を通して、職業や目標等についての考え方に触れることで、学生たちの将来設計への指導・アドバイスとなることが期待されます。

当日は、川島先生が仕事への心構えや自己管理などについて講義を行った後、学部生5人がステージに上がり、川島先生を囲んでパネルディスカッションを行いました。

多くの人々が支えてくれている「川島なお美ブランド」の世界、そして「その替わりの人間はいないからこそ、“心と体の健康管理”を大切にする」といった川島先生のプロとしての厳しい姿勢を幾つかのエピソードを交えて話されました。またパネルディスカッションでは、参加した学部生の質問にひとつひとつ丁寧に答えていただき、充実したひとときが瞬く間に終わったという印象でした。

なお、講義風景については、広島テレビの取材があり、当日夕方放映されました。



パネルディスカッション



田中先生

「貧困」「弱者」が鍵、現代社会の課題を探る

—2009年度後期「シティカレッジ」 社会人向け公開講座 開講—

「シティカレッジ」は、県内の大学や短期大学、教育ネットワーク中国と広島市、(財)広島市ひと・まちネットワークが連携して、大学などが持つ優れた研究・教育機能を市民生活に生かすことを目的に、社会人の皆様に学習機会を提供しています。(シティカレッジパンフレットより)

本大学現代社会学部は今期、次のようなテーマで公開講座を開講し、社会人の皆様へ様々な視点から情報をお届けしました。

《テーマ》現代の「貧困」と社会的弱者 —高齢者・障害者・若者・外国人…の置かれている状態と課題—

「豊かな国ニッポン」を支えてきた人々と社会の仕組みが崩れてきました。「構造改革」が進めてきた「新しいニッポン」づくりは、未来を展望する一方で、非正規雇用の増大、「派遣切り」、「内定取り消し」、介護労働問題、後期高齢者医療制度、老齢基礎年金、障害者自立支援、生活保護費受給、外国人労働力など新たに様々な問題を引き起こしています。こうした状況の下で社会的弱者といわれる人たちの実態と、諸制度のマッチング状況、課題などについて、高齢者／障害者など分野別のテーマで講演を行いました。



高畑先生



沢田先生

開講日	タイトル	講師
9/12	障害のある人の権利保障	教授 目黒 輝美
9/12	精神障害者の「貧困」—社会的貧しさへの挑戦—	教授 佐々木哲二郎
9/26	高齢者の生活満足度—広島県における高齢者アンケートから—	准教授 田中 里美
9/26	外国人に介護される日は来るのか—フィリピン人の介護者を事例として—	講師 高畑 幸
10/3	格差社会と非正規労働—フリーター論、ニート論のゆくえ—	教授 沢田善太郎

秋たけなわ、ボール追う汗も爽やかに

—第3回学生交流会—

歴史ある下宿生交流会から発展し、今回で3回目となる学生交流会が10月17日、上瀬野キャンパス陸上競技場で行われました。週間予報では雨マークが出ており、天候が心配されましたが、当日は参加者の思いが伝わるかのようなカラッとした秋晴れの下、学生と職員の親睦を図ることができました。

今までの交流会はソフトボール主体の競技でしたが、今回は学生からの要望もあり、ソフトボールとサッカーを行うことになりました。どちらかというところ、サッカー希望の学生が多数を占めていたように思われます。

ソフトボールの試合では、学生チームと教員チームのひと試合が行われました。サッカーは学生チーム同士の試合になりました。総勢50名の参加者がボールを打ったり、蹴ったりして楽しい汗を流しました。試合はお昼ごろに終了し、お腹を空かした参加者たちはバーベキューコンロを囲んで焼肉と焼きそばを十分にいただきました。お腹いっぱいとなり心地よい疲れが残った一日でした。

準備に係わられた学生生活指導委員会の先生方の活躍により、交流会は一層盛り上がりました。今後とも楽しい企画を期待しています。



サッカーに興じる学生

研修旅行 part2

—新日本製鐵株を見学、自動車材料について学ぶ—

学生生活指導委員会 越智 三千彦



新日本製鐵株にて

2回目となる研修旅行を8月6～7日に行いました。今年度は一泊二日の行程で、関西方面を旅しました。

1日目の研修は新日本製鐵株広畑製鉄所を訪問。自動車の材料に関して見聞を深める意味で、迫力のある圧延工程を見学しました。圧延工程(熱延ライン)では厚さ250mmの鋼片(スラブ)を加熱し、連続熱間圧延機で1.2mm～20mm程度まで薄く押し延ばしていく様を見ることができました。熱風のため工場内はまるでサウナ状態。汗まみれになってしまい大変でしたがよい勉強になりました。

その後は神戸の異人館街を散策し、大阪(中之島)のホテルへと向いました。

到着するやいなや、夜の大阪へ社会勉強(?)に出かける学生もいました。

2日目は学生たちが楽しみにしていたUSJ・海遊館と、希望に応じ二班に分かれて行動しました。特にUSJは夏休みということもあり、ほとんどのアトラクションが1時間待ちでしたが、何とか楽しんでいただけました。

この二日間は学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。学生たちの喜ぶ姿に心癒やされるものがありました。

整備のプロへ目標定まる

—車検場見学—

9月11日に1年生の就職支援ゼミ「ゼミナール」の一環で、自動車検査独立行政法人中国検査部の車検場を見学しました。

当日は業務説明を受ける班と、検査状況を見学する班に分かれ、二か所で同時に講義と見学を行いました。講義室では国土交通省中国運輸局広島運輸支局の上本専門官から、運輸支局の業務説明があり、車両は点検整備と維持が法令で義務付けられていて、そのため整備という業務は非常に重要であるという説明を受けました。一方検査場では実車を検査ラインで走行させて排気ガス成分の測定、ブレーキ、ヘッドライト性能など一連の検査を新田検査課長に説明していただき、ピットでは下回り検査の要点の説明も受けました。次に、傾斜角度測定機での傾斜角度検査やカメラ画像を用いた車両の諸元測定システムなど最新技術による計測法の説明を受けました。

今後本格的に整備技術を勉強していく上で、目標が明確となる非常に有意義な見学会でした。



傾斜角度測定機による検査

国際交流室 土肥 穰治

私は一昨年、ロンドンのBritish Council本部でイギリス姉妹校来
 広時の平和教育について発表しました。姉妹校の校長先生は報告を
 受け、次回訪問時にPeace Dayを持とうと即答。翌年3月に渡英し
 た本高校の生徒10名は「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子
 さんについてプレゼンし、折鶴の作り方も指導しました。

去る10月の来校時には、姉妹校から千羽を超える折鶴が捧げられ
 ました。新型インフルエンザの影響で小規模な歓迎会となりました
 が、琴の演奏を楽しめました。ホストファミリー同士が連携し、す
 ばらしい交流ができました。

イギリスの生徒は「生徒との交流はとても楽しかったです。被爆者
 の話には心を打たれました。日本での滞在はホストファミリー抜き
 には語れません。日本の家や生活様式が分かり、本当の家族のよう
 に扱ってくれてくつろげました」と語っています。

一方ホストファミリーは次のように述べています。「広島駅に迎えに行き、お好み焼き店へ直行。目を
 白黒させながらも、箸とヘラで食べてくれました。少しでも我が家のように感じてもらえたらと思い日々
 を過ごしました。宮島や広島城などとても真剣に見学し、日本の文化を学ぼうと努力していました。帰国
 後も毎日メールをくれ、様子を聞くのが楽しみです。国際に来て良かったです」。ご協力ありがとうございました。

<http://www.hi.hkg.ac.jp/xoops/>



折鶴を手に「原爆の子の像」
 の前で

第3回USAハワイ・ジャパングニアカップ(11月3~10日)に参加して



ハワイ遠征での筆者(右)

普通科2年 久志岡 俊海(広島市立仁保中学校出身)

ハワイ遠征。この言葉を聞いただけで気持ちが高ぶってしまいます。ハワイ
 でゴルフができるなんて夢のようです。この夢が叶えられたのは、先生方や多
 くの方々のお陰と感謝しています。

ジュニアカップには全国の高校から選ばれた男子12名、女子9名が出場しま
 した。いつもは競い合っている全国の選手と一緒に日本代表として戦うという、
 普通ではできない経験でした。六泊八日の旅で最も印象的なことは、何と言っ
 てもハワイの選手たちとの交流会です。言葉は通じませんが、ゴルフがお互い
 の気持ちを通わせてくれたと思いました。

試合はとても楽しいものでした。団体戦は1勝1敗1分けでしたが、マッチプレーの個人戦で私は全勝しまし
 ました。今回の素晴らしい経験を、これからの練習の方法や取り組みに生かしていきたいと思います。

ゴール前の競り合い、緊迫の一瞬を描く

—サッカー県大会プログラムに採用—

緊迫感漂う力強い絵。「第88回全国高校サッカー選手権大会広島県大会」の大会プログラ
 ムの表紙を飾るのは、普通科3年の木村遙さん(海田西中学校出身)の作品です。多数の応募
 作品から「特選」に選ばれ、表紙に採用されました。選手の一瞬の動きを見事に捉え、大
 胆なタッチで躍動的に描いています。

受賞後、木村さんは作品について「ゴール前で互いに競り合う力強さを表現しました。
 絵とはキャンバスと自分との対話だが、自分の描いた絵が他人の目に触れることで初めて
 『絵』になるのだなと実感しました」と語りました。



サッカーポスター

第48回文化祭 一愛 国際博一

「愛 国際博」、第48回文化祭のテーマです。11月22日、校内は、まさに愛に満ちた、そして文化の薫り高さ盛大な祭となりました。2年生は学年共通のテーマとして「環境問題(ecology)」を掲げ、各クラスで展示発表、これに加えてレンゲの種子を結びつけた“エコ風船”を飛ばしてエコを訴えました。1年生は、今年で5回目となった「合唱コンクール」。未来への希望と仲間への愛が溢れた合唱でした。

また、PTA、クラス、クラブからは様々なバザーが出店され、会場は大にぎわいでした。今年度も高大連携の一環として広島国際学院大学から3学部の紹介、自動車短期大学部からは全日本手作りゼロハンカー優勝マシンが展示されました。

新型インフルエンザが日本列島を席卷し、広島県内でも中止または規模縮小を余儀なくされる高校が多く出る中、幸運にも我が国際学院の文化祭は予定通り実施の運びとなりました。ただ、体育館で行う行事には参加者全員にマスクを配付し、着用をお願いしました。当日の生徒・職員、そしてPTAのみなさんの笑顔は印象的でした。お出でくださった方々に、心より感謝申し上げます。



歌声で愛と希望を表現



情報デザイン学部の講座

オープンスクール

1,800人。今年度のオープンスクール参加者数です。9月27日、早朝降り始めた雨も上がり、清々しい晴天となりました。新型インフルエンザの影響もなく無事開催できました。職員はもとよりお手伝いの生徒(補助生徒)350名にも嬉しいことでした。

系列の広島国際学院大学工学部、情報デザイン学部、現代社会学部も講座を開設しました。グラウンドにはECOカーやピンクリボンラッピングバスを展示。ポン菓子製造・頒布なども大学の先生が担当しました。本高校の講座を含めると実に多様で多彩な内容です。学食体験にも工夫を凝らし、「国際バーガー」なる特製メニューも加えました。授業だけでなく、本高校の明るく楽しい雰囲気を味わってもらえたと思います。

授業だけでなく、本高校の明るく楽しい雰囲気を味わってもらえたと思います。

次年度入試の貴重なバロメーターとなるオープンスクール。入試広報室を中心に数ヶ月前から細かな準備をしてきました。不備もあったと思いますが、アンケート結果は総じて好評でした。更に改善点を洗い出し、中学生だけでなく保護者にも有意義なオープンスクールを目指します。地域社会により一層信頼される学校作りに励みたいと思います。

「海田税務署長賞」受賞

国税庁の主催による「2009年度第48回 税に関する高校生作文」に、普通科2年の竹本弥生さん(広島市立牛田中学校出身)が応募し、海田税務署長賞を見事受賞しました。

竹本さんはこれまで税金に対して関心はほとんどなかったのですが、執筆に当たって納税の仕組みや税金の用途などを勉強したそうです。そして、現在進行中の少子高齢化が歳入の減少を招き、今の税制では国が成り立たないのではないかと考えるに至りました。原稿用紙3枚にまとめ上げられた竹本さんの作品は、多数の応募がある中、全国34位という高い評価を得ました。



表彰式(右から2番目が竹本さん)

シエラレオネ共和国で教育調査 その1

地域連携センター 石坂 広樹

私は7月8日から10月1日まで国際協力機構(JICA)の委託を受け、アフリカ西部に位置するシエラレオネ共和国に理数科教員研修管理専門家として派遣されました。現地では、教育省の高等教育・科学技術局にて教員研修に関する政策についてアドバイスするとともに、JICAの実施している理数科教員研修のモニタリング・評価を行い、地方にも多数回赴き学校教育の現状調査も行いました。

シエラレオネはアフリカでも最貧国の一つに挙げられ、国際的な指標である「人間開発指数」でも182カ国中180位と、国民は大変厳しい環境下で生活しています。同国ではダイヤモンドが鉱物として産出されるため、90年代勃発した内戦が鉱物を資金源に約10年間も続いてしまったことが、今日の貧困の遠因となっています。なお、武装解除が2002年までに完了したため、現在は見違えるほど平和で安全な国に生まれ変わっています。

現地でJICAが実施している理数科教員研修には約2週間直接参加し、研修の様態を拝見させていただきました。小中学校は多いものの教育機材は極端に不足しており、日本なら通常できるような実験・実習型の授業が全くできないのが現状です。そこで同研修では特に、身近で安価なもの(ペットボトル、ダンボール、ビニール袋、石、砂、植物、油等)を最大限有効活用した実験・実習に力点を置いて技術移転を行っていました。これにより今まで不可能と思っていた授業ができることから、より質の高い授業を生徒たちが享受できるだけでなく、教師側のモチベーションも飛躍的に高まります。このような研修はJICAにより全世界で、特にアフリカ地域では数多くの国で実施されています。

本大学には理数科の教職課程があり、専門家となりうる教員も多いことから、このような理数科教員への研修も重要な活動の一つとして十分参画できると実感しました。



シエラレオネの子どもたち

第42回高城祭「New Challenger」を終えて

高城祭実行委員会 委員長 山本 真之

10月17・18日に第42回高城祭を行いました。今年度は実行委員全員が1年目。精一杯力を出し祭を成功させようとの思いを込め、テーマを「New Challenger」に決定しました。

雨に見舞われるなどのアクシデントもありましたが留学生や研究室からのバザー出店が増え、店揃えは一層多彩に。来場者の喜ぶ顔を数多く見ることができました。当夜祭は恒例のカラオケ大会や「2smile」・「瑠璃」のLIVE、そしてビンゴ大会も行われました。新型のPS3やNintendo Wiiなどの賞品があり、会場は熱気で包まれました。



大人気だったベトナム料理の屋台

終夜祭では、ロックミュージシャンの「藍坊主」をメインゲストにLIVEを行いました。「藍坊主」を一目見ようと県外からも大勢の人が詰めかけました。毎年恒例の花火も打ち上げられ、フィナーレを鮮やかに彩りました。また去年と同様、電気主任技術者国家試験受験クラブのご協力でイルミネーションを設置しました。今も夜の中野キャンパスに神秘的な光を添えています。

実行委員会のメンバーが一斉に一新、経験も無い中で多くの方々が支えてくださいました。この支えあっての成功と思っています。来年度は一味違った高城祭を作りたいと思います。

バングラデシュを訪ねて



バングラデシュの小学校を訪問

—青少年国際交流・協カスディーツアーに参加—

現代社会学部2年 吉岡 佑記(広島県瀬戸内高校出身)

私は8月2日から10日まで、(財)広島平和文化センターの主催する青少年国際交流・協カスディーツアー2009に参加し、バングラデシュという国に行っていました。目的は開発途上国の現状を視察・学習するとともに、現地の方の家にホームステイし国際交流を推進することにあります。

現地では学校を訪問し、人々の生活を拝見しました。貧しいため学校に行けない子どもたちがたくさんいて、強いカルチャーショックを受けました。文化交流会で私は少林寺拳法の演武をさせてもらいま

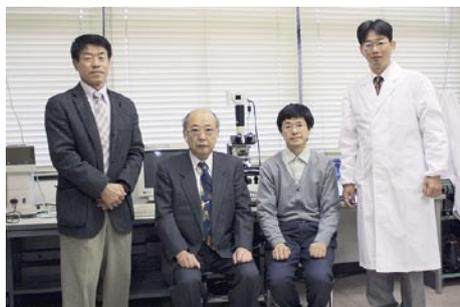
した。現地の方もバンドや民族舞踊を披露してくださり、とても内容の濃いものとなりました。広島紹介展では、同じツアーのメンバーが原爆のことについて調べまとめたものを展示し、バングラデシュの人たちに向けて原爆の悲惨さ・平和の大切さについて訴えました。また、人生で初めてのホームステイもさせていただきました。ホームステイ先では言葉がなかなか通じませんでしたが、片言の英語を一生懸命駆使してなんとか意思疎通をはかることができました。ホストの家族の皆さんには本当にお世話になり、感謝の思いで胸がいっぱいです。この気持ちを手紙などでお伝えしたいと思っています。

今回スディーツアーに参加したことは、一生忘れられない最高の思い出になりました。これからも世界で起きていることを勉強し、直接触れる中で「自分にできることは何か」追求していきたいと思っています。



少林寺拳法の型を披露

炎 火災防止にも貢献しています! 炎



火災原因究明に携わるスタッフ
(左から越智准教授、河野教授、歌谷准教授、竹野准教授)

広島市消防局アドバイザースタッフに3教員が任命

一瞬のうちに生命や家財を奪う火災。暖房や調理など、人々の生活に欠かせない「火」も、扱いを誤ると大変な火災事故につながります。消火活動を行う消防署員は、火災の原因も詳しく調査し、再発防止へ日夜努力されています。そんな中、本学の教員が特異火災の原因究明・鑑識などを行う、広島市消防局アドバイザースタッフに任命されました。

近年の技術革新と発展は目覚しく、自動車、電気機器、化学製品などの性能は著しく向上し、私たちの生活環境はより快適なものになってきました。一方で、発生する火災の原因は複雑化し、その究明が困難に陥るケースが増加しています。

広島市消防局はその対策として、平成8年度からアドバイザー制度

を導入し、専門的見識を必要とする「自動車」「電気」「化学」の3部門の火災の原因究明、再現実験、調査員の指導・育成に活用してきました。そのアドバイザースタッフに、自動車短期大学部より越智三千彦准教授(自動車)、情報デザイン学部より歌谷昌弘准教授(電気)、工学部より竹野健次准教授(化学)の3教員が任命され、地域の火災原因の究明に貢献しています。

また、平成19年度まで電気火災の原因調査に従事していた工学部の河野健次教授が、回路の不適切を解明し製品のリコールに至るなど長年の功績を称えられ、21年の消防の日に広島市消防局より表彰を受けました。



広島市消防局から表彰された河野教授
(前列右)

第3回森学術奨励賞 —情報デザイン学部・伏見教授が受賞—



森学術奨励賞を受賞した伏見教授（前列左から2番目）

森学術奨励賞の第3回表彰式が11月20日に行われ、今回は情報デザイン学部の伏見清香教授が受賞しました。

伏見教授は、デザインリサーチ等、学生を学外の世界に触れさせ、勉強すべきことをまず自覚させながらの指導法が特徴的です。その成果として、学生は各種コンペに出展、商品包装紙のデザインなど、社会との交流の中で大きく成長しています。

研究面では科学研究費補助金等の外部資金を獲得して新しい研究を推進、成果を国際学会で発表し、学術論文として世界に発信しています。

高校生を対象とした「おもしろ技術体験」授業、入試説明会、立町キャンパスにおける外部受講生を対象としたデッサン教室など地域貢献にも活発に取り組んでいます。さらに愛知県、名古屋市、広島市での都市景観デザイン等に関する委員の委嘱をうけて活躍しています。

伏見教授は次のように受賞の喜びを語りました。「この度は、森学術奨励賞を拝受し、厚く感謝申し上げます。新学科設立とほぼ同時に本大学に赴任し、学科の発展のために微力ながら努力して参りました。同時に、研究においても積極的に取り組み、国際会議や学会で発表をおこなって参りました。これらの教育と研究の活動を、森学術奨励賞として評価していただきましたことは、大変嬉しく、重ねて深謝申し上げます」

学長表彰を創設 —第1回は情報デザイン学部・趙教授が受賞—

この度、情報デザイン学部の趙悦教授が第1回学長賞を受賞しました。これまでの本大学における教育研究の成果から見て当然の受賞であり、趙教授ともども喜びを分かち合いたいと思います。

趙教授は、教育の面では計算機のハード面、ソフト面について、あるいはネットワークについて、きわめてわかりやすい講義をし、学生から高い評価を得ています。また教育で多忙なかわら研究面でも精力的に努力し、すばらしい成果を挙げています。それに加えて、本大学の留学生のよき相談相手として、さらには学生募集に至るまで大きな貢献をしています。

さらに付け加えたいことは、趙教授は外部資金を獲得して、実践型ネットワーク関連技術者の育成と資格取得を支援しています。その中のひとつCCNA資格は時間をかけて試験対策集中講義、個別指導を実践し、毎年多数の合格者を出し、成果は中・四国地区屈指といわれています。今後、ますますのご活躍を願っています。

初めての受賞者となった趙教授からのコメントです。

「第1回学長賞という名誉ある賞を授与していただき、大変光栄です。本大学で教鞭を執り始めて16年になりました。日頃周りの方々の支えがあったからこそ、今日まで頑張ってきたと思ひ、皆様のご支援とご協力に心より感謝いたします。この度の学長賞受賞を励みにして、今後もより一層の努力をしていきたいと思ひます」



学長賞を受賞した趙教授（前列左から2番目）

★ 今後の主な 行事予定

(赤字は公開行事です)

大学・短大	推薦入試 (短1/16)	一般入試 (大 前期1/28~29 後期3/5 短 前期1/29 後期3/5)	会社説明会 (短2/1~2)	卒業論文発表会 (現2/6)
	学内合同企業セミナー (大2/12~13)	卒業制作選抜展 (情デ2/20~21)	保護者懇談会 (短2/20)	卒業式 (3/19)
高 校	献血 (1/14~15)	推薦入試 (2/3)	入学宣誓式 (4/5)	マラソン大会 (2/11)
	卒業式 (3/1)	入学式 (4/8)	一般入試 (2/18~19)	

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

平成20年度事業報告 (含む財務の概要) はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/kikaku/soumu/H20houkoku.pdf>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536